

## 祖母のつぶやき

私が、小学生だった頃。我が家の暖房器具といえば、練炭コンロと石油ストーブが1台だけでした。その石油ストーブも反射式で、ストーブの前側と真上だけしか火の恩恵を受けない物でした。

寒い冬の朝。両親とも勤め人だったため、(火の始末に時間がかかるので)練炭コンロは使わずに石油ストーブ1台と、調理するガスコンロの熱だけが「暖房(ぬくもり)」というのが日常でした。



【練炭コンロと石油ストーブ】

ある日の朝食後も、私と姉は、台所に置いてあるストーブの前に座り込んで、体をびったりとくっつけて暖を取っていました。すると、近くに住む祖母が、「寒い、寒い!」と言いながら台所に入ってきて私たちを横に押しやって石油ストーブの真ん前に座り、「今朝は、冷たいのお。大霜の朝や。けどなあ、こんな日は、辛抱しとかないかん。ちょっと辛抱しといたら、昼からは、ぽかぽかの陽気になるんや。」と、私たちに言っているのか独り言をつぶやいているのか分からないような言葉を発しながら、ストーブの火に手をかざして、時々、手をもんだり、ストーブの上で焼いている餅をひっくり返したりしていたのです。

私たちは、あきらめてランドセルを背負い、北風の中に飛び出して行ったのでした。寒い寒いと震えている私を見て、4歳年上の姉は、「ええか、日陰は寒いきん、思い切り走るで。日向になったら、ゆっくり歩いてもええで。」と、私の手を引っ張ったものでした。私たちは、真っ白い息を吐きながら、走ったり歩いたりして学校に向かいました。すると、学校に着く前には、体は、ぽかぽかになっていました。

あれから50年以上の年月が過ぎ、当時の祖母と同じくらいの齢に私はなっています。今、あの朝の祖母の言葉を思い返してみても、祖母は、やっぱり独り言をつぶやいていたように思います。幼い私たちに何かを教えようとしたのではないと思うのです。しかし、私は、祖母が私に対して言ってくれた言葉だと今は感じています。そして、祖母は、「大霜の朝は、必ずぽかぽか陽気になるから、少しの辛抱だ。」ということだけを私たちに伝えたとは、今は、とても思えないのです。

もう一つ。小学校の高学年になった私は、ボール投げが好きで、ブロック塀に向けて、軟球を投げては跳ね返ったボールを拾うという遊びに熱中していました。しかし、ボールは、絶対に投げてはいけない方向、つまり、ガラスに向かって飛んでいってしまうのです。ガシャーンと嫌な大きな音を立てて割れるガラスを何度見たことでしょうか。昔のガラスは、割れやすかったのです。窓枠に当たっただけでもガシャーンでした。

両親に叱られてしょげている私に、たまたま通りかかった祖母は、「ガラスは割れるからいいんじゃ。音を立てて割れるからいいんじゃ。」とつぶやいて立ち去りました。ガラスが鉄でできていたらいいのと思っている当時の私には、祖母の言葉は届きませんでした。



今になって、「割れやすい物は、特に気を付けることが大切だよ。」とか、「音を立てて割れないものもあるんだよ。」と、祖母は教えてくれたのかもしれないと思うようになりました。